

「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で
2017年4月22日（土）～7月2日（日）開催！

江戸から大正時代にかけての着物や装身具の優品約 200 点を一堂に

たばこと塩の博物館では、2017年4月22日（土）から7月2日（日）まで、「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」展を開催します。

今日では、日本の伝統的衣装である着物や装身具を着用する機会が少なくなりました。しかし、江戸時代から大正時代にかけての江戸（東京）や京・大坂などの都市で生活する人々のあいだでは、着物や装身具は日常的に用いられたほか、個性や斬新さが求められ、洗練された作品も数多く制作されました。さまざまな意匠、素材、技法で制作された作品は、現代でも新鮮なものとして映ります。

本展の中心となる中村コレクションは、東京で袋物商として活躍した中村清商店の創始者中村清氏（1887～1946）が蒐集した、江戸から明治・大正にかけて制作された染織品のコレクションです。中村清氏は、刺繍の技の優れたもの、仕立てのいいもの、染めのいいものなどにこだわり蒐集してきました。蒐集は昭和初期に行われており、和装が洋装に変化していくなか、日本の伝統的文化を後世に伝え、着物や装身具をもう一度見直そうという目的もあったとのこと。

今回の展示では、中村コレクションの中から、女性と男性の着物とそれぞれが身につけた筥迫（はこせこ）やたばこ入れなどを中心に、インドやジャワの古渡（こわたり）更紗や輸入革として人気があった金唐革などを素材にした装身具を展示します。さらに結髪雛形や化粧道具なども合わせた約 200 点の資料をとおして、当時の人々が持っていた装いに関するこだわりと美意識を紹介します。

【作品介绍】→ 別紙1へ

【展示関連の催し】→ 別紙2へ

「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」開催概要

- 名称 着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男（キモノトソウシングニミルエドノイイオンナ・イイオトコ）
会期 2017年4月22日（土）～7月2日（日）
主催 たばこと塩の博物館
協力 株式会社クイーポ、ポーラ文化研究所
会場 たばこと塩の博物館 2階特別展示室
住所 東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩8分）
電話 03-3622-8801 FAX 03-3622-8807
URL <https://www.jti.co.jp/Culture/museum/>
入館料 大人・大学生 100円（50円）
満65才以上の方（要証明書）と小・中・高校生 50円（20円）
＊（ ）内は20名以上の団体料金
開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
休館日 月曜日



業平菱に杜若冠文様打掛

「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」展の中から、一部の作品をご紹介します。

女性の着物と装身具

Photo. 01



業平菱に杜若冠文様打掛

〈なりひらびしにかきつばたこうぶりもんよううちかけ〉

綸子(りんず)地 摺匹田、刺繍、金刺繍

江戸後期 寸法：身丈 163.5×衿 61.3 cm

白綸子地に有職(ゆうそく)文様の三重襷(みえだすき)、杜若、公家の冠(こうぶり)などをあらわした振袖。中綿が多く、打掛として着用されたと考えられる。

Photo. 02



松竹梅鶴亀高砂文様振袖

〈しょうちくばいつるかめたかさごもんようふりそで〉

縹子(しゅす)地 刺繍、銀刺繍

江戸後期～明治初期 寸法：身丈 158.0×衿 62 cm

緑色縹子地に銀糸入りの刺繍で松、紅白の梅、竹と舞鶴、養亀をあらわした振袖。裾には謡曲『高砂』にちなむ散り松葉と熊手、帯も刺繍されている。

Photo. 03



赤羅紗地蝶文様錦糸筥迫

〈あからしゃぢちょうもんようきんしはこせこ〉

江戸末期 寸法：縦 9.5×横 14.0cm

筥迫は、江戸時代中期頃より発達した女性用の装身具。御殿女中や武家中流以上の婦人が、紙入れとして使用し、多くは豪華な装飾や細工が施されていて、中に懐紙、薬、楊枝、櫛、鏡、小銭等を入れて携帯した。

Photo. 04



綴織鶴文守り巾着

〈つづれおりつるもんまもりきんちゃく〉

明治末～大正 寸法：縦 10.5×横 11.0cm

守り巾着は、お守り入れとして江戸中期ころから江戸で流行り、その後、全国的に広まったといわれる。現代でも七五三の祝いに際して子どもが、こうした守り巾着を身につける風習は見られる。

Photo. 05

男性の着物と装身具



八丈縞八端地羽織

〈はちじょうしまはったんじはおり〉

綾地縞織（八丈縞）、縞珍地

江戸後期 寸法：身丈101.5×衿68.9cm

八端と通称される綾織(あやおり)八丈縞の羽織。裏地も細かな文様の縞珍(しゅちん)を用い、紐は太い平組紐で先がぼたん掛けと凝った仕立てである。八丈縞は現在の東京都八丈島で織られた絹織物で、島の植物や泥で染めた黄色、樺（鶯）色、黒の深く渋い色調が特徴的である。

Photo. 06



黄色呉呂地丸に横木瓜紋陣羽織

〈きいろごろじまるによこもっこうもんじんばおり〉

毛織物地（呉呂）、木綿地（更紗）等

江戸後期 寸法：身丈 89.5×半肩幅 29.3 cm

陣羽織は武将、上級武士においては陣中の礼服と位置づけられ江戸時代を通し制作された。桃山、江戸初期の武将の陣羽織には大胆奇抜な意匠がみられた。本作のような袖無し、返し襟、前に下がった太刀受の形式は幕末期の陣羽織の典型である。

※本展では、着物を 35 点展示する予定ですが、会期中に一部展示替えを行います。リリースに掲載している着物 (Photo01, 02, 05, 06) については、4 点とも全期間展示します。

Photo. 07



相良縫竹林七賢人象牙象嵌紙入れ

〈さがらぬいちくりんのしちけんじんぞうげぞうがなかみいれ〉

江戸中期 寸法：縦 12.5×横 18.0cm

紙入れは、「鼻紙入れ」とも呼ばれ、外出時に必要な小間物を入れて携帯した。これは、相良刺繍(さがらししゅう)とも呼ばれる相良縫の技法で作られたもの。三つ折り、または二つ折りの形態をしたものが多く、鼻紙や薬、小楊枝などのほか、金銭も入れた袋物である。

Photo. 08



花文刻印手金唐革腰差したばこ入れ

〈はなもんこくいんできんからかわこしざしたばこいれ〉

明治～大正 寸法：口の部分 縦 7.3×横 12.2cm

刻みたばこを入れる口（かます）の部分は、オランダから輸入した金唐革を用いており、きせるを入れる筒の部分は簾(とう)の網代編みで作られている。緒紐は、珊瑚。前金具は、金工家の桂光春によって浅草寺の風景が彫られている。

画像データの用意がございます。掲載していただけるようでしたら、同封の返信用シートをご返送いただくか、画像の番号を下記までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

広報担当：裃地（ほろち） TEL 03-3622-8801 E-mail: horochi@tsmuseum.jp

【たばしお寄席】 午後 2 時～ 定員：90名 当日整理券制

2017 年 4 月 23 日（日）

口演：柳家小八（噺家）

解説：新藤茂（国際浮世絵学会常任理事）

【たばしお講座】 午後 2 時～ 定員：90名 当日整理券制

2017 年 5 月 28 日（日）

「江戸のリッチモンド 青い目が見た幕末の光景」

講師：石倉孝祐（北区飛鳥山博物館学芸員）

2017 年 6 月 11 日（日）

「蘭学領主のお買物 嗜好品を中心に」

講師：近藤貴子（佐賀市大隈記念館元学芸員）

2017 年 6 月 18 日（日）

「史料から見る呉服店三井越後屋」

講師：下向井紀彦（三井文庫研究員）

【展示関連講演会】 午後 2 時～ 定員：90 名 当日整理券制

2017 年 5 月 14 日（日）

「衣装ときれの小宇宙 袋物商中村清の選択眼」

講師：大久保尚子（宮城学院女子大学生生活文化デザイン学科教授）

【展示関連イベント】

午前 11 時 30 分～／午後 2 時～ 定員：各回とも 70 名 当日整理券制

2017 年 6 月 4 日（日）

「結髪実演 御殿女中のヘアスタイル」

実演：林照乃（結髪師）

解説：村田孝子（ポーラ文化研究所）

※ いずれの催しも、3 階視聴覚ホールで開催。

※ いずれの催しも、参加には、入館料が必要です。

※ いずれの催しも、当日開館時より整理券を 1 名につき 2 枚まで配布します（配布時に人数分の入館料をいただきます）。

返信用シート

(「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」展画像希望)

たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX: 03-3622-8807

E-mail: horochi@tsmuseum.jp

「着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男」展プレスリリースに掲載している画像8点を広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAX かメールでご返送いただければ、ご希望の画像 (jpeg) をメールでお送りします。

チェック欄	画像 No	掲載時のクレジット
☐	Photo.01	業平菱に杜若冠文様打掛 江戸後期
☐	Photo.02	松竹梅鶴亀高砂文様振袖 江戸後期～明治初期
☐	Photo.03	赤羅紗地蝶文様錦糸筥迫 江戸末期
☐	Photo.04	綴織鶴文守り巾着 明治末～大正
☐	Photo.05	八丈縞八端地羽織 江戸後期
☐	Photo.06	黄色呉呂地丸に横木瓜紋陣羽織 江戸後期
☐	Photo.07	相良縫竹林七賢人象牙象嵌紙入れ 江戸中期
☐	Photo.08	花文刻印手金唐革腰差したばこ入れ 明治～大正

■貴媒体について

貴社名	ご担当者名
ご連絡先 TEL : FAX :	e-mail
媒体名 :	掲載予定日 (号) :